



南部町立南部中学校 学校だより 第15号

千一ム南部中

令和4年12月6日(火)

校長 望月和彦

より良いハーモニーを求めて「音楽発表会」



11月23日(水、勤労感謝の日)に「第12回音楽発表会」を実施しました。11月後半から校内でも新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者が増加し、一時は学級閉鎖や放課後の活動なしなどの対応を行いました。発表会直前まで全校生徒の健康状態を把握した上で、予定通りの開催とさせていただきました。十分な練習時間は確保できなかったように思いますが、音楽の授業時間や朝、放課後、昼休みまで利用して、少ない時間を最大限工夫して生徒たちは練習に励んでいました。

そして迎えた当日。発表会のトップバッターは1年生。学級合唱は1Bが「ほらね、」、1Aが「HEIWAの鐘」、そして学年合唱は「空駆ける天馬」を歌いました。初めて中学校の音楽発表会のステージに立つ生徒たちの表情には緊張感が溢れていましたが、合唱に真面目に取り組んできたことが感じられる1年生らしい真っ直ぐな歌声でした。続く2年生。2Aは「ヒカリ」、2Bが「信じる」、そして学年合唱は「春に」を歌いました。一人一人が精一杯歌っているだけでなく、中間の声を聞きながら一つのハーモニーをつくろうとする気持ちを強く感じました。1年前の合唱に比べると、驚くほど心が成長してきていること

を感じる合唱でした。そして、トリは3年生。3Bは「言葉にすれば」、3Aは「蝶はばたく朝」、学年合唱は合唱曲の名曲「大地讃頌」でした。教師のアドバイスを受けながらも、どのように曲を表現するかを自分たちで考え、意見を出し合い、より良いものを創り上げようとする心意気を感じる合唱でした。「さすが、3年生」と思わせる歌声でした。本校が合唱活動に力を入れている理由は、より良い合唱づくりが、より良い学級・学年づくり、そしてより良い学校づくりにつながっているからです。より良いハーモニーを創り上げるためには、音程はもちろん、声の強弱やリズム、どんな気持ちを込めて歌うかという自分の考えが、一緒に歌う仲間の考えが一致していることがとても大切です。同じ目標に向かって繰り返し練習し、みんなの考えを一つにまとめていく作業が、より良い学級づくりと同じだからです。1年生は2年生の、2年生は3年生の、より優れた合唱を聴き、気持ちを一つにしてより良いものを作り上げようとする姿勢、顔の表情や身体全体を使って表現しようとする姿を見て、「自分たちもああなりたい」と感じているようでした。残念ながら体調不良で参加できない生徒もいましたが、学級や学年、全校生徒の団結力と文化面での成長を感じられる一日になりました。

お寄せいただいた保護者の方々の感想の一部を掲載します。



- 1年生の合唱、とても上手でした。コロナで思うように練習ができない中、あそこまで仕上げたことは素晴らしいことだと思います。来年、再来年も楽しみです。
- 子どもたちの頑張っている姿を見ることができて良かったです。コロナ対応での発表会で準備などが大変だったと思います。子どもたちの成長過程を見ることができて嬉しかったです。広い体育館なので他の学年も見ることができたら良かったと思いました。
- 子どもたち一人一人が大きな声を出し、みんなで団結して練習してきたことがすごく良くわかりました。本番に向けて家でも練習していました。今日は素晴らしいハーモニーを聞くことができて良かったです。お友達も動画

を見せたら「この学年は歌唱力があって上手だね」と言っていました。

- ▶ 少人数の上に一人一人の間隔を十分にとって、合唱をまとめ上げることはとても大変なことだと思います。緊張感が伝わってくる中で、生徒の皆さんそれぞれが表現を工夫し頑張っていました。子どもから「この曲に決まったよ」とか、「練習頑張っているよ」など、取り組みの様子を聞いていたので今日はとても楽しみにしていました。どの学級や学年も素晴らしく感動しました。特に、3年生は「さすが」と思いました。コロナ禍が続いていますが、参観することができ幸せです。感動し、元気をいただきました。
- ▶ クラス合唱は緊張している中でも、みんなで歌える楽しさやハマっている楽しさを感じながら、良い顔で一生懸命歌っている姿が見られ、嬉しく思いました。どのパートも少ない人数でも、しっかり相手の音を聞いて歌っていて、とてもきれいな合唱だったと思います。毎日家でもパートの音を聴いたり、口ずさんだりと、発表会への取り組み方法にも学びがあったようです。学年合唱もとても素敵で、成長を感じました。
- ▶ コロナ禍で参加が叶わなかった生徒がいるなど、多くの制限の中素晴らしい発表をされた生徒の皆さん、発表会の開催にご尽力なされた先生方に感謝いたします。3年生の皆さんが大きく成長した姿を見ることができ、保護者として感慨深いものがありました。生徒の皆さんの多くが、身体全体で歌うことを意識して、堂々と歌っている姿がとても良かったです。

※その他にもたくさんの温かい感想を寄せていただきました。開催方法やコロナ対策などについてのご意見は、検討し今後にかかしていきます。ありがとうございました。

身につけたい力交流会

生徒会事務局が中心となり、今年度も「身につけたい力交流会」が2回行われました。生徒会目標「自分と仲間の成長を喜び合える学校」に向けての取り組みの一つです。生徒一人一人が学校生活の様々な場面の中で身につけたい力を考えます。次に、その力をつけるためにはどんなことが必要かを、様々な仲間と意見交換しながら、考えを深め、実行に移していくための活動です。意見交換は、仲の良い友だちの間ばかりでなく、3年生がリーダーとなり、今まであまり話したことの無い生徒同士や男女が混ざったグループもあり、学年を越えての意見交換ができるように工夫しています。8月30日に行われた1回目のお題は「輝城祭の取り組みを通して身につけたい力」でした。そして、11月16日の2回目のお題は「期末テストの取り組みを通して身につけたい力」でした。交流会は学校内の様々な会場に、1年生から3年生が入り交じって行われました。最初は戸惑っている1年生もいましたが、上級生が優しくリードしてくれる中で、自分の考えを発表したり、上級生からアドバイスを受けて、和やかに話ができるようになってきました。全校生徒が共に支え合って成長していこうという雰囲気生まれてきています。意見交換の際には一人一台端末のChromebookが役に立っています。



南部町民文化祭

11月6日(日)3年ぶりに南部町民文化祭の芸能発表会が開催されました。今回はコロナ対策のため、インターネットを使ったライブ配信という初の試みでした。文化ホールで行われたプログラムのトップバッターが本校吹奏楽部でした。ライブ映像とはいえ、町民の方々に向けての演奏は3年ぶりです。「演歌メドレーⅡ」と「新宝島」の2曲を心を込めて演奏できました。活性化センターの展示発表会には、美術や家庭科などの作品を展示させていただきました。



学校開放期間 小中連携授業参観

10月26日(水)から28日(金)は2回目の学校開放期間でした。保護者、身延高校の先生、教育委員、主任児童委員の方々など合計で35名の方々が来校し、授業や生徒たちの活動の様子を観ていただきました。特に27日の6校時は、授業の開始時間を通常より遅らせて、小学校の先生方に参観していただきました。昨年度6年生の担任だった先生には、1年教室で生徒たちの成長の様子を観ていただきました。生徒たちは元担任の先生の参観に大喜びでした。

